

府立成人病センターの整備について (検討の経過と専門家会議)

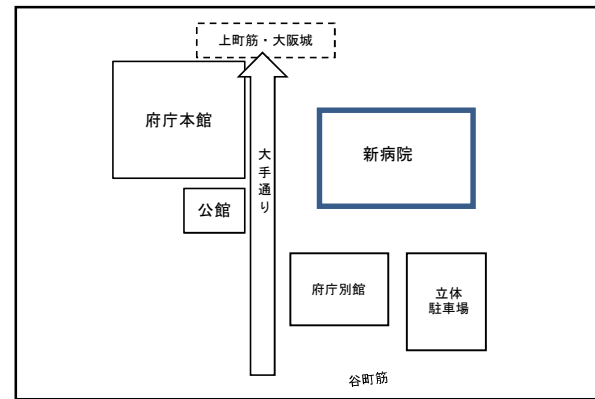
■これまでの検討経過

府立成人病センターについては、最も古い建物で築後 45 年が経過し老朽化・狭隘化が進み、がん医療の高度化に対応できていないなど機能上の問題がある。また施設の一部は耐震性能が不足しており建替えは急務の状況

- ・平成 21 年 9 月議会 大手前地区を前提とする整備基本構想
- ・平成 22 年 2 月議会 PFI 事前準備業務費
- ・平成 23 年 2 月議会 成人病センター関連予算の否決、再議否決
東成区地元住民等から移転反対の請願採択

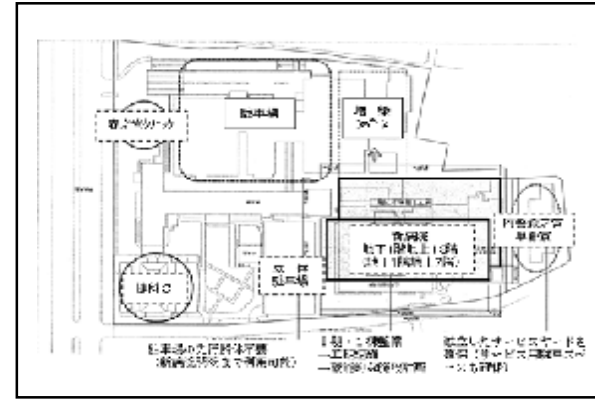
●大手前移転建替案

- ・敷地面積 約 1.2ha
- ・延床面積 約 65,000 m²(地下 2、地上 13 階)
(うち研究所約 5,000 m²)
- ・整備期間 約 5 年 11 か月
- ・整備費 約 291 億円
- ・整備のイメージ



●森之宮現地建替案(自民党案) <参考資料⑥>

- ・敷地面積 約 2.3ha(新病院敷地は約 1.0ha)
- ・延床面積 約 56,000 m²(地下 1、地上 13 階)
(うち研究所は既存活用)
- ・整備期間 約 6 年(開院までは 5 年 3 か月)
- ・整備費 約 270 億円
- ・整備のイメージ



○スケジュール 資料 1 - 4 ⇒ **約 1 年の事業中断となっている**

○H 23 年 4 月～

◇成人病センターの立地場所について、現地建替え(森之宮地区)と移転建替え(大手前地区)の両案について比較検証に着手

◇民間建設会社 6 社へのアンケートを実施(整備期間、工事期間中の課題リスク、追加費用、公衛研の整備期間、工事期間中の課題リスク等)及び交通アクセスについて調査
<参考資料②>

- ・工事期間；森之宮地区の方が大手前地区に比べ 2 か月長い
- ・工事期間中のリスク；現地の場合、病院の医療行為に対する工事制限などが発生
- ・追加費用；杭工事が必要と回答した会社は大手前 1 社、森之宮 4 社
- ・公衛研の整備期間；整備から撤去期間までは約 24.6 か月(撤去は周辺施設含む)
- ・交通アクセス；主要都市からのアクセスは森之宮地区の方が 5～6 分早い
- ・トータルの整備期間は 1 年以上の差が生じ、大手前地区の方が早く整備できる

◇「成人病センター建替えの検証に関する専門家会議」の設置(6月)

■専門家会議における議論の経過

立地場所として両地区のどちらが適当であるかを客観的に検証するため、病院建築、医療、患者家族の視点から技術的かつ専門的な検証を行った

- | | | |
|----|---|----------------------|
| 座長 | 大坪 明 (武庫川女子大学生生活環境部教授) | →建築・都市デザイン |
| | 今村 洋二 (関西医科大学附属枚方病院病院長) | →移転建替えを経験 |
| | 寛 淳夫 (工学院大学建築学部教授) | →医療施設の計画・設計 |
| | 本田 孔士 (大阪赤十字病院名誉院長) | →現地建替えを経験 |
| | 山口 育子 (NPO ささえあい医療人権センターCOML 専務理事兼事務局長) | →患者や家族の視点から医療問題に取り組む |

(敬称略・座長を除き五十音順)

○本会議における検討内容

第 1 回 7 月 4 日	<ul style="list-style-type: none"> ・成人病センターの建替えにかかるこれまでの経過 ・成人病センターの概要と整備の方向性 ・移転案と現地案の概要(平成 23 年 2 月議会時点) ・民間建設会社のアンケート結果、交通アクセスの比較、アンケート結果を踏まえた整備期間、成人病センターの整備費(寛委員作成指示)
第 2 回 7 月 14 日	<ul style="list-style-type: none"> ・成人病センター現地建替えに関する請願、地元住民の意向について ・前回の意見を踏まえ更なる議論(診療機能、療養環境、整備期間、事業費等) ・寛委員資料として提出された現地建替えのボリューム検討について確認
意見聴取 7 月 26 日	<ul style="list-style-type: none"> ・第 3 回の専門家会議に先立ち、現地建替え案の提案者である自由民主党府議会議員、また東成区、中央区の地元連合振興町会の代表者から座長が意見聴取
第 3 回 7 月 27 日	<ul style="list-style-type: none"> ・前回意見を踏まえ更なる議論(将来の拡張性、療養環境、地域住民の意向等) ・現地森之宮地区における将来拡張用地の確認 ・平成 20 年度における病院機構の 3 つの現地建替え案の検討経過について ・立地場所に関する項目比較(まとめのたたき案)

■専門家会議の結論 <参考資料④>

- ・府民のがんの死亡率は全国ワーストレベル。高度ながん医療の提供は府の使命
- ・施設設備については老朽化、狭隘化が著しく、耐震性能の確保も急務
- ・成人病センターは、がん治療の研究開発や人材育成などの役割を担っており、機能の充実を図る必要があるなど、早期の建替え整備は喫緊の課題
- ・以上のことを踏まえ、大阪府民全体の病院として、がん患者に対し一日でも早く高度ながん医療を受けられる環境を整えていくことが重要であるとの認識のもと、患者の療養環境にも配慮しつつ、確実に早期整備が図れる大手前地区での移転建替えに優位性がある(8 月 3 日公表)

府立成人病センターの整備について (専門家会議の検証結果における個別事項の比較)

項目・論点	検証結果 (抜粋)	項目・論点	検証結果 (抜粋)						
①診療機能 ・必要な延べ床面積の確保 ・病室配置、診療スペース等設計の自由度は高いかなど	<ul style="list-style-type: none"> ■森之宮地区では、敷地形状や周辺環境から新病院の設計に制約が生じるが、設計上の工夫により条件（個室率 50%、1フロア2看護単位）を満たすなど、一定の改善は可能であることを確認。 ■大手前地区は、周囲に利用未定の更地が多く、比較的制約を受けずに建築計画が可能。工事中も周囲に対して特段の配慮を要しない。 ■両案とも、ある程度の機能を備えた施設整備が可能であるが、大手前地区の方が設計の制約条件が比較的少なく、森之宮地区ではアプローチ整備に工夫を要する点で大きく異なる。 ■高い機能を持った病院整備には、両案とも十分な広さの敷地面積とはいえず、設計上の工夫も検討されたい。 	⑤整備費用 ・整備コストの比較 ・整備費用増高要因、リスク ・用地取得の評価 など	<ul style="list-style-type: none"> ■整備費用は、建築工法、既存設備の活用等により変動するほか、診療機能低下に伴う減収等、額が明確に出せない項目もあるが、現時点の試算では、移転建替案に比べ現地建替案の方が少ない。 ■建設や解体の工事中の診療制限による減収分については、試算は困難であるが、整備費用として見込むべきという意見あり。 ■整備費用（試算額）の比較（新病院建築単価は 40.5 万円/㎡を前提） <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">大手前地区</th> <th style="width: 50%;">森之宮地区</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>約 324.5 億円 + 不確定分 (α)</td> <td>約 279.0 億円 + 不確定分 (β)</td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・建設工事約 263 億円(65,000 ㎡) うち 5,000 ㎡はセンター研究所 ・杭工事約 3.5 億円 ・公衛研移転費約 16 億円 ・用地取得費約 42 億円 不確定分 (α) ; 立体駐車場整備、地下通路整備、外構工事、設計、現病院解体等 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・建設工事約 243 億円(60,000 ㎡) ・杭工事等約 7.0 億円 ・新公衛研建設費約 23 億円 ・用地取得費約 6 億円(公衛研) 不確定分 (β) ; 駐車場整備費(不足 120 台分)、外構工事、設計、現病院解体、工事中の診療制限による減収等 </td> </tr> </tbody> </table>	大手前地区	森之宮地区	約 324.5 億円 + 不確定分 (α)	約 279.0 億円 + 不確定分 (β)	<ul style="list-style-type: none"> ・建設工事約 263 億円(65,000 ㎡) うち 5,000 ㎡はセンター研究所 ・杭工事約 3.5 億円 ・公衛研移転費約 16 億円 ・用地取得費約 42 億円 不確定分 (α) ; 立体駐車場整備、地下通路整備、外構工事、設計、現病院解体等	<ul style="list-style-type: none"> ・建設工事約 243 億円(60,000 ㎡) ・杭工事等約 7.0 億円 ・新公衛研建設費約 23 億円 ・用地取得費約 6 億円(公衛研) 不確定分 (β) ; 駐車場整備費(不足 120 台分)、外構工事、設計、現病院解体、工事中の診療制限による減収等
大手前地区	森之宮地区								
約 324.5 億円 + 不確定分 (α)	約 279.0 億円 + 不確定分 (β)								
<ul style="list-style-type: none"> ・建設工事約 263 億円(65,000 ㎡) うち 5,000 ㎡はセンター研究所 ・杭工事約 3.5 億円 ・公衛研移転費約 16 億円 ・用地取得費約 42 億円 不確定分 (α) ; 立体駐車場整備、地下通路整備、外構工事、設計、現病院解体等	<ul style="list-style-type: none"> ・建設工事約 243 億円(60,000 ㎡) ・杭工事等約 7.0 億円 ・新公衛研建設費約 23 億円 ・用地取得費約 6 億円(公衛研) 不確定分 (β) ; 駐車場整備費(不足 120 台分)、外構工事、設計、現病院解体、工事中の診療制限による減収等								
②将来の拡張性 ・医療技術の進歩や病院機能の変化に対応できるよう、将来の増改築に必要な用地が確保できるなど	<ul style="list-style-type: none"> ■両地区において、新しい医療技術や機能変化への対応のための拡張用地が確実に担保されているとは言えない。 ■森之宮地区において新病院用地を購入する場合は十分な拡張用地を確保することは可能であるが、等価交換に比べて整備費が最大 29 億円程増加する。 ■大手前地区に立地するのであれば、現計画地の 1.2ha だけでなく、将来の機能拡張用地の確保や設計上の工夫をすることも検討すべき。 	⑥交通アクセス ・所要時間 （乗換時間、計画地までの徒歩による時間など） ・バリアフリーの整備 など <参考資料③>	<ul style="list-style-type: none"> ■今回の調査結果では、主要地点から両地区までの所要時間は、森之宮地区の方が最大 5～6 分短い。 ■トータルの所要時間から見ると、両地区の交通アクセスはそれ程大きな違いはないという意見が多かった。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">大手前地区</th> <th style="width: 50%;">森之宮地区</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・最寄駅から所要時間平均約 6 分 ・駅から計画地までは雨に濡れないバリアフリーの地下通路を整備予定。 ・所要時間 府内主要地点 20～38 分 近隣府県駅 46～86 分 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・最寄駅から所要時間平均約 4 分 ・最寄駅から計画地まではバリアフリー整備済み。 ・所要時間 府内主要地点 15～39 分 近隣府県駅 40～80 分 </td> </tr> </tbody> </table>	大手前地区	森之宮地区	<ul style="list-style-type: none"> ・最寄駅から所要時間平均約 6 分 ・駅から計画地までは雨に濡れないバリアフリーの地下通路を整備予定。 ・所要時間 府内主要地点 20～38 分 近隣府県駅 46～86 分 	<ul style="list-style-type: none"> ・最寄駅から所要時間平均約 4 分 ・最寄駅から計画地まではバリアフリー整備済み。 ・所要時間 府内主要地点 15～39 分 近隣府県駅 40～80 分 		
大手前地区	森之宮地区								
<ul style="list-style-type: none"> ・最寄駅から所要時間平均約 6 分 ・駅から計画地までは雨に濡れないバリアフリーの地下通路を整備予定。 ・所要時間 府内主要地点 20～38 分 近隣府県駅 46～86 分 	<ul style="list-style-type: none"> ・最寄駅から所要時間平均約 4 分 ・最寄駅から計画地まではバリアフリー整備済み。 ・所要時間 府内主要地点 15～39 分 近隣府県駅 40～80 分 								
③新病院の療養環境 ・騒音など病院の周辺環境 ・病室からの眺望 ・患者のプライバシーの確保 ・周辺マンション住民との視線 など	<ul style="list-style-type: none"> ■大手前地区の周囲の現況は官庁街や公園であり静かだが、将来の土地利用は未確定。 ■森之宮地区では、大手前と比べて道路交通量が多く、騒音や排気ガスによる影響が懸念される。ただし、新病院は中央大通から離れた敷地奥となるため、騒音の影響は一定低減されると考えられる。 ■病室からの眺望は、療養環境を考えるにあたって重要な要素 <ul style="list-style-type: none"> ・大手前地区は、近接するマンションがなく、プライバシーが保たれ、眺望が良いことから、療養環境の点では優れているという意見が多かった。ただし、周辺土地利用が未確定であるため将来において眺望が担保される保証はない点は留意が必要。 ・森之宮地区においては、周辺は密集した市街地であるが、病棟東側は良好な眺望が確保されると考えられる。また、視線の対向など住民と患者のプライバシーについては設計上の工夫により一定の解消はできる。 	⑦工事期間中の療養環境 ・工事による療養環境、診療機能への影響 ・工事による周辺居住環境への影響 など	<ul style="list-style-type: none"> ■森之宮地区での建替の場合、工事期間中の振動、騒音により診療機能の低下や診療制限が起こるため、病院側のダメージが大きいという意見が多い。また、粉塵に起因する感染症への配慮が必要との指摘あり。 ・民間建設会社アンケートの指摘 MR I 等の医療機器や診療行為への影響 患者の療養環境への影響、病院利用者の動線への影響 騒音、振動、粉塵等による居住環境への影響 等 ■工事期間中の工事用車両の通行については、民間建設会社のアンケートが指摘するように、周辺の居住環境、来院者の動線確保に大きな影響を与えるため、十分な配慮が必要であるとともに、工事遅延の要因となる可能性が高いという意見が多い。 						
④整備期間 ・早期建替の実現性 ・工期や整備期間の延長リスク、課題 など	<ul style="list-style-type: none"> ■一日でも早く新しい病院を建設し高度ながん医療を府民に提供する環境を整備すべき。少なくとも 1 年以上開院が遅れることによる患者への影響を考慮すべき。 <ul style="list-style-type: none"> ・大手前 平成 28 年度末が見込まれる ・森之宮 平成 29 年度以降となる <資料 1 - 4> ■現地建替案は、公衛研等の移転が前提となるため、移転先の選定、入札等の期間が必要であり、工事遅延の可能性もある。また、森之宮地区の西側道路は、工事用車両の乗入れに支障が生じることが懸念されるなど、工期が大手前に比べてより長くなる可能性が高い。 ■現在確認できるだけで整備期間に 1 年以上の差があり、森之宮地区では、さらに長期化するリスク要因が多く指摘され、その蓋然性も高く整備期間がさらに長くなる可能性が高い点に留意。 								

府立成人病センターの整備について (地元住民との意見交換等)

■府議会からの主な意見

会派名	主 な 意 見 (知事要望)
維新の会	<ul style="list-style-type: none"> ・党内に成人病センターPTを設置(5回開催、現地調査、国内事例の調査) ・知事への提言(23年8月) <p>成人病Cは府民、国民全体の利益のために存在。その認識のもと早期建替を進めるべき</p> <p>「府がん対策推進条例」の精神に基づき大阪が誇る病院として未来志向の移転建替を一日でも早く実現すること</p>
公明党	<ul style="list-style-type: none"> ・がん医療の急速な進展に対応できるよう、将来的に備えるべき機能、必要な施設規模などを総合的に検討し、早期着工を図ること
自民党	<ul style="list-style-type: none"> ・自民党が示した現地案と大手前案を単純に比較していることに異議あり ・様々な観点から検討が必要であり専門会議の議論は不十分。会議継続を。 ・公衛研はりんくうタウンへの移転をする準備を進めること ・専門家会議委員に対し質問状提示(8月11日)委員から回答(8月25日)
民主党	<ul style="list-style-type: none"> ・大手前地区への移転は東日本大震災に伴う庁舎のあり方と大手前の土地利用のあり方を考えると成人病Cの工事着工が大幅に遅れる。早期建替のため大手前の問題と切り離すべき。森之宮地区を府の一大健康ゾーンとして成人病Cの現地建替を進めるべき。

■地元住民との意見交換

2月議会以降、東成区及び中央区の地元連合振興町会等に対し、機会を捉え説明会、意見交換会を実施してきた。

- ・ 3月 2日 東成区北中道連合振興町会への説明会開催
- ・ 4月 5日 中央区の大手前周辺の連合振興町会長等への説明会開催
- ・ 5月 12日 大阪城公園西部エリアマネジメント勉強会
- ・ 6月 23日 大阪城公園西部エリアマネジメント勉強会
- ・ 7月 12日 北中道振興町会・中央区有志からの要請により地元意見交換会を開催
- ・ 7月 13日頃 谷町2丁目振興町会から専門家会議委員に対し要望文書
- ・ 7月 26日 北中道振興町会から専門家会議委員に要望文書
- ・ 7月 26日 中大江東、北中道の両振興町会長から専門家会議座長が意見聴取
- ・ 8月 25日 両地区の連合振興町会と合同の地元説明会・意見交換会
- ・ 8月 30日 両地区の連合振興町会と合同の地元説明会・意見交換会

■地元住民の意見

区 名	地 元 か ら の 意 見
東成区	<ul style="list-style-type: none"> ・北中道連合振興町会は成人病Cの大手前移転に反対 ・地元住民に説明があったのが23年3月になってから。寝耳に水のような話 ・成人病Cは東成区のシンボリック施設。半世紀の歴史の中で愛着のある施設 ・成人病Cが東成区にあるから地域として公衛研を理解し協力してきた。成人病Cが大手前に移転するなら、公衛研も一緒に持っていくべき
中央区	<ul style="list-style-type: none"> ・中大江地区の連合振興町会は成人病Cの大手前移転に反対 ・成人病Cを大手前に持ってくる理由が分からない。府の土地利用計画がめざすにぎわいにつながるのか疑問 ・大手前は官庁街として発展してきた、官庁街がふさわしい ・庁舎移転を断念した以上大手前に新庁舎を整備すべき。成人病Cを建設すれば新たな庁舎整備ができなくなる ・成人病C研究所はP3施設を持つ施設、大手前に移転させるべきでない

■府民アンケート <参考資料⑤>

- 目的 専門家会議の議論において、成人病センターは府全域をカバーするがん専門病院であるため、広く府民に対して意見を聞くことが必要との意見により実施。
- 対象 府民3,000名、計画地周辺3区民(中央・東成・城東区)500名に対し実施
- 実施期間 8月中旬(ネットアンケート)
- 手法 交通の利便性や周辺環境、開院時期、整備費、工事中の療養環境の5つの評価基準により、大手前、森之宮地区のどちらがより立地場所として望まれているかについて回答を求めた。

立地場所の結果は両地区が同程度

○府民アンケート結果

- ・立地場所として大手前地区、森之宮地区の総合評価は、ほぼ同程度であった
- ・評価基準としては、交通の利便性、工事期間中の療養環境の重要度が高かった
- ・なお、居住地によって立地場所の評価に差異があった
大手前；豊能、三島地区 森之宮；中河内、南河内 その他地域は同程度

○計画地周辺3区民(中央区・東成区・城東区)のアンケート結果

- ・立地場所として東成区、城東区では森之宮地区、中央区では大手前地区の総合評価が高かった

(参考)成人病センター利用者(患者・家族等)へのアンケート(平成21年11月実施)
1,766名中約75%の利用者が「利便性」「早期実現性」を重視する回答あり。

○病院機構(成人病センター)の考え方

- ・成人病センターとしては、老朽化、狭隘化する病院を一日でも早く建替え、治療を待っている患者に対し高度ながん医療を提供することが公的病院の使命と考えている。従って、早期建替を最優先として捉えたい。